

12 経営情報専攻専門科目

授業科目	簿記論II		担当者	岡村雄輝
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Iと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互、片山寛、北村敬子(編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和5年版)、中央経済社。</p> <p>(2) 大藪俊哉編『簿記テキスト』(第6版)、中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは? : 簿記の意義、目的、財務諸表</p> <p>第2回 仕訳と転記 : 仕訳の意義、勘定への転記</p> <p>第3回 決算 : 決算の意義と手続、試算表作成</p> <p>第4回 決算 : 帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金 : 当座預金と当座借越、その他の預金、小口現金</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上 : 仕入帳と売上帳、商品有高帳</p> <p>第7回 売掛金と買掛金 : 売掛金明細表と買掛金明細表、クレジット売掛金、前払金と前受金</p> <p>第8回 その他の債権と債務 : 仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証建</p> <p>第9回 有形固定資産 : 有形固定資産の取得と売却、減価償却、固定資産台帳、年次決算と月次決算</p> <p>第10回 資本 : 株式会社の設立と株s期の発行、繰越利益剰余金、配当</p> <p>第11回 収益と費用 : 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い、消耗品と貯蔵品</p> <p>第12回 伝票 : 仕訳帳と伝票、3伝票制、伝票から帳簿への記入、伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表 : 精算表の作成、財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題 : 問題演習と解説②</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト100%			
実務経験について	なし			

授業科目	経営管理論		担当者	竹中啓之
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可		授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明 : 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か : 管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間 (1) : 企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間 (2) : テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間 (3) : メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間 (4) : マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのかを考える。</p> <p>第8回 人的資源管理 (1) : 企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第9回 人的資源管理 (2) : 採用管理について説明する。</p> <p>第10回 人的資源管理 (3) : 人事異動 (初任配置・配置転換・昇進など) について説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理 (4) : 人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第12回 人的資源管理 (5) : 人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第13回 人的資源管理 (6) : 人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か : リーダー (上司) として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	経営組織論		担当者	近間由幸
	〔履修年次〕 1,2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営組織論における個人と組織の関係性について</p> <p>【概要】経営組織に関わる理論を紹介し、これらの理論がどのような企業組織を念頭に置いて議論されてきたものなのかを解説する。また、現代社会において求められている組織や個人のあり方について、適宜事例を交えながら解説を行う。</p> <p>【到達目標】「組織」、「リーダーシップ」、「モチベーション」という言葉でイメージされる人物像や組織のモデルが、授業で扱うものうちどれに近いのかを、自らの経験に照らし合わせて考えていけることを到達目標としている。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 田尾雅夫編『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—いろいろな組織の捉え方</p> <p>第2回 組織論における人間モデル</p> <p>第3回 ワーク・モチベーションとその理論</p> <p>第4回 個人と組織のかかわり合い—モチベーション、コミットメント、キャリア</p> <p>第5回 集団の機能と組織</p> <p>第6回 組織におけるリーダーシップ</p> <p>第7回 組織文化</p> <p>第8回 経営組織の設計</p> <p>第9回 官僚制組織とネットワーク組織</p> <p>第10回 変動する環境における組織</p> <p>第11回 戦略と組織学習</p> <p>第12回 イノベーションと組織</p> <p>第13回 ダイバーシティ・マネジメントと組織の課題</p> <p>第14回 経営組織の動態化と組織変革</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、中間レポート (30%)、期末レポート (40%)			
実務経験について	なし			

授業科目	労務管理論		担当者	近間由幸
	〔履修年次〕 1,2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。</p> <p>【到達目標】歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理 第6版』有斐閣アルマ</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第2回 労務管理とはなにか</p> <p>第3回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第4回 組織構造と職務内容</p> <p>第5回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第6回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第7回 賃金管理制度のしくみ (2) 一職能給と職務給</p> <p>第8回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第9回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第10回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第11回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第12回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第13回 労務管理と労働組合</p> <p>第14回 労務管理の国際比較</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)			
実務経験について	なし			

授業科目	管理会計論		担当者	福田 正彦		
	[履修年次]	1年,2年いずれも履修可	授業外対応			
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択
	[授業形態]			[授業形態]	講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営者、幹部、経理の立場から、企業の利益を増大するための合理的な意思決定や管理方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 実務経験に基づく、管理会計のノウハウを講義するとともに、学生が作成した事業計画を発表する。</p> <p>【到達目標】 管理会計の基礎の考え方、ノウハウを理解し、社会で適用できる能力を身に付ける。</p>					
(1)テキスト	(1) 教員が配布する。					
(2)参考文献	(2) 『「管理会計の基本」がすべてわかる本』 金子智朗著 (2009) 秀和システム					
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション、原価の性格 第2回 事業計画の作成 (発表課題) 第3回 短期的意思決定 1 (広告宣伝や値引きで利益をあげる) 第4回 短期的意思決定 2 (管理会計の意思決定) 第5回 アウトソーシング、追加受注 第6回 商品別の利益管理 第7回 事業部の利益管理 第8回 中間試験 第9回 長期的意思決定 1 (キャッシュフロー、NPV) 第10回 長期的意思決定 2 (IRR、回収期間) 第11回 予算管理 第12回 予算と実績との差異分析 第13回 コストコントロール 1 (重要性とABC) 第14回 コストコントロール 2 (原価企画) 第15回 まとめ					
授業外学習(予習・復習)	管理会計は積み重ねの科目であり、毎回復習し、次の授業に参加すること。					
成績評価の方法	中間試験、期末試験、発表それぞれ 1/3の比重で評価する。さらに発言点も加える。					
実務経験について	入社から定年退職まで約37年間、日産自動車(株)にて海外営業、開発部門の経理の実務経験を持つ。					

授業科目	原価計算		担当者	劉 美玲		
	[履修年次]	1年、2年	授業外対応	適宜対応(要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択
	[授業形態]			[授業形態]	講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 原価計算入門</p> <p>【概要】 原価計算の仕組みを理解することは、原価管理や原価改善のために不可欠である。本講義では、原価計算の基礎について、計算問題に取り組みながら学びます。</p> <p>【到達目標】 原価計算の基礎的知識と技術の習得</p>					
(1)テキスト	(1) 高橋賢『テキスト原価会計』(最新版) 中央経済社					
(2)参考文献	(2) なし					
授業スケジュール	第1回 ガイダンス、原価及び原価計算の基礎知識 第2回 原価の費目別計算 第3回 製造間接費の配賦 第4回 単純個別原価計算 第5回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算1 第6回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算2 第7回 中間テスト 第8回 単純総合原価計算 第9回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理 第10回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算 第11回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算 第12回 標準原価計算1 第13回 標準原価計算2 第14回 直接原価計算 第15回 まとめ					
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、計算問題に取り組む予定です。					
成績評価の方法	中間テスト (30%) 期末テスト (70%)					
実務経験について	なし					

授業科目	国際経営論	担当者	野村俊郎
	[履修年次] 1, 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本のものづくり」の海外移転に関わる問題はどうか解決されているか考える</p> <p>【概要】海外での企業経営は、①現地の消費者の要望、現地政府が規制で要求する環境・安全要件の両者に対応する商品企画・商品設計、②現地での生産、③現地での部品調達 の3分野で取り込まれる。国際経営論ではこの3分野について説明する。</p> <p>【到達目標】日本のモノづくりの強さの秘密を、この3分野に分けて説明し、その海外移転の課題について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車 IMV』および『トヨタの新興国適応』文真堂</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明：自動車産業に代表される日本的経営の強さの秘密はどこにあるのか</p> <p>第2回 政府の規制で待たなしの気候変動対策</p> <p>第3回 電気か、水素 (FCV・水素エンジン) か、内燃機関 (ガソリン・ディーゼル) か</p> <p>第4回 新興国でも強まる衝突安全規制</p> <p>第5回 海外の人々が求める車 (アメリカ・ヨーロッパ・アジア・アフリカ・ラテンアメリカ)</p> <p>第6回 日本のモノづくりの海外移転の方法～トヨタの3本柱活動①</p> <p>第7回 日本のモノづくりの海外移転の方法～トヨタの3本柱活動②</p> <p>第8回 日本のモノづくりの海外移転の方法～トヨタの3本柱活動③</p> <p>第9回 日本のモノづくりの海外移転の方法～トヨタの3本柱活動④</p> <p>第10回 日本のモノづくりの海外移転の方法～トヨタの3本柱活動⑤</p> <p>第11回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～曖昧契約の意義</p> <p>第12回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～価格決定のタイミング</p> <p>第13回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係の海外移転①</p> <p>第14回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係の海外移転②</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		
実務経験について	なし		

授業科目	経営学特講 I	担当者	田原 武志 東 圭太
	[履修年次] 1年、2年	授業外対応	授業終了時、もしくは適宜、メール、電話にて対応
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【講義の特徴】毎週のレポート作成、発表を通じて、レポート作成力が身につきます。結果、経営情報からの4年制大学編入試験の合格者の多くが当講義の履修者です。編入試験を目指す、他学科からの受講生を積極的に受け入れています。(手続きをすれば受講可能です。)</p> <p>【テーマ】経営を学んで、人生を豊かに幸せにしよう。</p> <p>【概要】マネージメント手法を学びます。本講義の経営は会社はもちろん、大学の文化祭実行委員会、部活動、町内会、PTA、家庭、人生なども含みます。講義を通して、情報収集、論理展開を学び、自分の意見をもつ重要性を伝えます。毎回の講義で達成感、充実感を提供し成長を実感させます。大学で受講した講義の中で一番思い出深い講義の一つになると確信しています。</p> <p>【到達目標】履修後、社会の様々な立場で、講義で学んだマネージメント手法を活用し成果を出せるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、次回課題をプリントにて配布。メールにて送信。</p> <p>(2) 無し。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーリング</p> <p>第2回 毎回テーマを決めて講義、レポート、感想発表</p> <p>～第14回 (テーマ例)</p> <p>「隠れた経営資源に気づく」</p> <p>「目的、目標の設定の重要性を認識する」</p> <p>「継続的改善の仕組みを取り入れる」</p> <p>「企業の果たす社会的責任について認識する」</p> <p>「トレンドを把握する」</p> <p>「コンプライアンス(法令遵守)が求められている社会的背景と必要性の考察」</p> <p>「企業人、社会人、家庭人としてのリスクマネージメント」</p> <p>「投機と投資の考察」等々</p> <p>第15回 まとめ 試験対策</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 (課題が毎回発表) と復習 (講義のまとめ) のレポート作成があります。		
成績評価の方法	レポート提出 (35%)、授業での発表 (35%) 筆記試験 (30%)		
実務経験について	30年間以上の経営コンサルタント実務有り。経営する会社が平成11年鹿児島商工会議所 産業経済賞大賞受賞。		

授業科目	比較経営論 (隔年開講)		担当者	瀬口 毅士	
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営システムの多様性を知る</p> <p>【概要】 この講義では、様々な国の経営システムを比較します。まず、日本の経営 (日本的経営) について解説した後、アメリカや欧州諸国、アジア諸国などの経営の特徴を検討します。各国の経営システムを説明する際に、それを生じさせた歴史的背景についても触れますので、歴史の話を苦にしない学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】 歴史、政治、経済、文化、地理などの諸条件の相違が、経営システムの相違を生み出すことを理解する。また、経営システムの多様性や経路依存性について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)				
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 株式会社制度とコーポレート・ガバナンス：経営システムを比較するための基本事項を説明する。</p> <p>第 3回 日本の経営 (1)：戦後からバブル経済崩壊までの日本的経営の特徴を説明する。</p> <p>第 4回 日本の経営 (2)：バブル経済崩壊以降の日本的経営の変容を解説する。</p> <p>第 5回 日本の経営 (3)：トヨタ生産システムを中心に、生産システムについて講義する。</p> <p>第 6回 日本の経営 (4)：日本的経営における組織・人的資源管理、および経営戦略の特徴を取り上げる。</p> <p>第 7回 日本の経営 (5)：中小企業、特に中小工業の変遷について講義する。</p> <p>第 8回 日本の経営 (6)：現代における日本企業の経営について考察する。</p> <p>第 9回 アメリカの経営 (1)：アメリカ企業のコーポレート・ガバナンスについて講義する。</p> <p>第 10回 アメリカの経営 (2)：アメリカ企業の組織、人的資源、経営戦略の特徴を解説する。</p> <p>第 11回 欧州の経営 (1)：イギリス企業の経営システムについて講義する。</p> <p>第 12回 欧州の経営 (2)：ドイツ企業の経営システムについて講義する。</p> <p>第 13回 欧州の経営 (3)：フランス企業の経営システムについて講義する。</p> <p>第 14回 アジアの経営：アジア諸国の経営システムを概観する。</p> <p>第 15回 経営システムの多様性：「比較」、「多様性」、「経路依存性」などをキーワードに、これまでの講義内容を振り返る。</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験 (100%)				
実務経験について	なし				

授業科目	会計情報論		担当者	岡村雄輝	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財務諸表を利用して企業分析ができるようになる</p> <p>【概要】 本講義は、担当者が企業の会計情報を分析し、いくつかの実在する企業のあり様を考察します。それを受けて受講者のみなさんは、企業の会計情報を各自で入手し、読解に取り組むことになります。</p> <p>【到達目標】 財務諸表分析を通して企業研究ができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 太田康広『ビジネススクールで教える経営分析』, 日経文庫。				
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</p> <p>第 2回 会計情報分析の対象：経営企画・戦略・会計</p> <p>第 3回 事例研究①：アパレル企業数社の収益性</p> <p>第 4回 会計情報の読み方 (1)：収益性の分析</p> <p>第 5回 会計情報の読み方 (2)：成長性の分析</p> <p>第 6回 会計情報の読み方 (3)：安全性の分析①</p> <p>第 7回 会計情報の読み方 (4)：安全性の分析②</p> <p>第 8回 事例研究②：アパレル企業数社の安全性</p> <p>第 9回 ビジネスプランを練る：損益分岐点分析と DCF 法</p> <p>第 10回 有価証券報告書を読む (1)：有報の読むポイントを知る</p> <p>第 11回 有価証券報告書を読む (2)：非会計情報から事業の概況を把握する</p> <p>第 12回 会計情報分析の実践 (1)：比例縮尺財務諸表の作成と収益性分析</p> <p>第 13回 会計情報分析の実践 (2)：成長性分析</p> <p>第 14回 会計情報分析の実践 (3)：安全性分析</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	有価証券報告書等の企業情報を積極的に収集し、精読してください。				
成績評価の方法	期末レポート 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	企業行動科学		担当者	竹中啓之
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える。</p> <p>【概要】行動科学とは、個人や集団の形で人間が行う行動に関して、その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し、説明し、分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく、心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。</p> <p>この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として、人や企業の意思決定がどのように行われているのかについて考え、実際の意思決定の特徴やその問題点について取り上げる。また、組織（集団）としてより良い意思決定を行うための方法についても考えていく。さらに、これらに関連して、リーダーシップ論や動機づけ理論についても触れる予定である。</p> <p>【到達目標】個人や組織の意思決定プロセスを理解する。リーダーシップや動機づけに関する主要な理論を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の概略を説明する</p> <p>第 2回 意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する</p> <p>第 3回 人の認知能力と意思決定：簡単な実験を通して人の認知能力について考える</p> <p>第 4回 組織の意思決定：組織の意思決定について説明する</p> <p>第 5回 集団での意思決定は本当に優れているのか：集団での意思決定の問題点を考える</p> <p>第 6回 組織の意思決定の質を高める方法について</p> <p>第 7回 組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える</p> <p>第 8回 映画「12人の怒れる男たち」について：集団的意思決定について映画を通して考える</p> <p>第 9回 意思決定に関連するその他の問題点について</p> <p>第 10回 インセンティブシステム（動機づけ理論）：動機づけ理論とその問題点について説明する</p> <p>第 11回 リーダーシップとは何か：リーダーシップの考え方の変化とその問題点について説明する</p> <p>第 12回 上司と部下の関係を考える：問題のある上司に当たったときの対処法を考える</p> <p>第 13回 物事を理解するレベル：物事を理解するレベルには段階があり、理論から実践へつなげることの大事さを知る</p> <p>第 14回 大学での学びについて考える：「卒業式は自由な人生の終わり」ではないという意味を解説する</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第 3回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第 4回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例を挙げながら、規模の経済と範囲の経済を説明する。</p> <p>第 5回 垂直統合と垂直分業、水平統合と水平分業：統合と分業について、垂直と水平に区分しながら解説する。</p> <p>第 6回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第 7回 M&A と戦略的提携 (1)：実例を紹介しながら、M&A について解説する。</p> <p>第 8回 M&A と戦略的提携 (2)：実例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。</p> <p>第 9回 経験曲線と PLC：PPM の基礎となる、経験曲線と PLC について解説する。</p> <p>第 10回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分について考える。</p> <p>第 11回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における 2つのアプローチを紹介する。</p> <p>第 12回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。</p> <p>第 13回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。</p> <p>第 14回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR 戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。</p> <p>第 15回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を考察する。</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (100%)			
実務経験について	なし			

授業科目	財務会計論		担当者	岡村雄輝		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	2	[単位]	2
	[必修/選択]	必修	選択	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計の全体像を理解する</p> <p>【概要】近年、グローバル化の影響によって会計基準の新設・改定が続き、会計への関心が高まっています。現代の経済社会では、会計の基礎概念や理論への理解が重要になっているといえます。本科目では、会計の機能を説明し、会計基準の考察を通して、現代会計の深淵に迫ってみたいと思います。※会計学総論、簿記論の学修を前提として講義を展開します。</p> <p>【到達目標】現代の経済社会で果たしている会計の役割、会計基準に通底する基礎概念や理論を理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 桜井久勝『財務会計講義』（第24版）、中央経済社。</p> <p>(2) 『新版 会計法規集』（第12版）、中央経済社。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 財務会計の機能と制度：財務会計の機能と法規制</p> <p>第2回 利益計算の仕組み：企業活動と財務諸表、複式簿記の構造</p> <p>第3回 利益計算の仕組み：複式簿記の構造、利益計算と財務諸表</p> <p>第4回 会計理論と会計基準：会計基準設定のアプローチと会計情報の質的特性</p> <p>第5回 利益測定と資産評価の基礎概念：発生主義会計</p> <p>第6回 利益測定と資産評価の基礎概念：資産評価の基準</p> <p>第7回 資金運用活動の資産と収益：現金預金と有価証券、キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第8回 売上高と売上債権：収益認識、売上債権</p> <p>第9回 棚卸資産と売上原価：棚卸資産の取得原価、原価配分、払い出し単価の決定、期末評価</p> <p>第10回 有形固定資産：減価償却、減損、リース</p> <p>第11回 無形固定資産と繰延資産：知的財産、研究開発費</p> <p>第12回 負債：負債の範囲と区分、引当金</p> <p>第13回 純資産：払込資本、稼得資本、区分表示</p> <p>第14回 財務諸表の作成と公開：財務諸表の体系、注記と附属明細表</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。					
成績評価の方法	期末レポート100%					
実務経験について	なし					

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士		
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	前期	[単位]	2	[単位]	2
	[必修/選択]	必修	選択	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、内容の理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはメーカーとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかに工夫が必要であるかを考えられることである。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第3回 グループ・ワーク（1）：身近な商品について考えてみよう。</p> <p>第4回 標的市場の選択：STPについて解説する。</p> <p>第5回 消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ること、諸飛車の購買行動について理解を深める。</p> <p>第6回 競争分析：「ポジショニング」の諸理論を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第7回 グループ・ワーク（2）：STPを使ってみよう。</p> <p>第8回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。</p> <p>第9回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第10回 流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第11回 流通戦略（2）：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。</p> <p>第12回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを中心に講義する。</p> <p>第13回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第14回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第15回 グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツを探してみよう。</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (80%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど (20%)					
実務経験について	なし					

授業科目	経営工学	担当者	倉重賢治
	[履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化		
	【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。		
	【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 圓川隆夫・伊藤謙治、『生産マネジメントの手法』、朝倉書店		
授業スケジュール	第 1 回 序論：経営工学とは 第 2 回 生産スケジューリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか 第 3 回 生産スケジューリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか 第 4 回 工程編成：均等に作業を割り当てるには 第 5 回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには 第 6 回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか 第 7 回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか 第 8 回 作業分析：作業者の動作を分析する 第 9 回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値 第 10 回 投資計画 2：プロジェクトの価値 第 11 回 在庫問題：在庫コストを少なくする 第 12 回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ 第 13 回 最短経路：一番近い道を探す 第 14 回 配送計画：配達順序を決める 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)		
実務経験について	なし		

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重賢治
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理		
	【概要】 この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。		
	【到達目標】 ・データベースソフト Access の使い方を修得する。 ・Excel を用いた統計処理を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：データベースのデータ編集 第 4 回 Access の操作：テーブル操作 第 5 回 Access の操作：クエリの作成 第 6 回 Access の操作：アクションクエリの作成 第 7 回 Access の操作：データベースの設計 第 8 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 9 回 Access の操作：レポートの作成とマクロの利用 第 10 回 Excel による統計処理：正規分布のデータ処理 第 11 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線 第 12 回 Excel による統計処理：平均値の推定 第 13 回 Excel による統計処理：平均値の検定 第 14 回 Excel による統計処理：比率の推定と検定 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (60%) + 期末試験 (40%)		
実務経験について	なし		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重賢治
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング		
	【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。		
	【到達目標】 ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1回 序論：プログラミングの概念 第 2回 VBA の利用：演算子と関数 第 3回 VBA の利用：変数 第 4回 VBA の利用：条件分岐 第 5回 VBA の利用：ループ処理 (1) 第 6回 VBA の利用：ループ処理 (2) 第 7回 VBA の利用：オブジェクト関連の文法 第 8回 VBA の利用：マクロの記録 第 9回 VBA の利用：Range オブジェクト 第 10回 VBA の利用：Worksheet オブジェクト 第 11回 VBA の利用：複数シートをまとめる 第 12回 VBA の利用：Workbook オブジェクト 第 13回 VBA の利用：イベントプロシージャ 第 14回 VBA の利用：ユーザフォーム 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)		
実務経験について	なし		

授業科目	簿記論Ⅲ	担当者	今村明代
	[履修年次] 1, 2年	授業外対応	講義終了時
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 経営内容の把握に役立つ商業簿記を学ぶ		
	【概要】 日商簿記 2 級レベルの商業簿記のテキストとワークブックを使用して、種々の取引の会計処理方法や記帳方法、各種計算書類の作成方法を解説し、問題演習に取り組みます。単なるパターン学習ではなく、背後に存在する考え方を理解すること意識して取り組みましょう。		
	【到達目標】 商業経営における種々の取引の会計処理方法や記帳方法を理解し、財務諸表 (損益計算書、貸借対照表、株主資本等変動計算書、精算表) を作成することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記講義 2 級商業簿記 2023 年度版』中央経済社 及び 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記ワークブック 2 級商業簿記』中央経済社 (2)		
授業スケジュール	第 1回 簿記一巡の手続と財務諸表 第 2回 現金預金と債権の譲渡、手形 第 3回 有価証券、その他の債権・債務 第 4回 商品売買 第 5回 固定資産 第 6回 引当金、収益と費用 第 7回 株式会社の純資産 (資本) 第 8回 税金、税効果会計 第 9回 決算：決算整理、帳簿決算手続 第 10回 決算：製造業における決算 第 11回 決算：財務諸表の作成 第 12回 決算：精算表 第 13回 リース会計、外貨建取引 第 14回 本支店会計、連結会計 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習と復習を毎回確実にすること。「予習→授業→復習」のくりかえしにより簿記の学習効果は着実に上がります。		
成績評価の方法	筆記試験 70%+小テスト 30%。詳細は 1 回目の授業で説明します。		
実務経験について	外資系銀行東京支店の人事・会計部門での実務経験を有する (6 年間)。		

授業科目	情報論特講		担当者	岡村俊彦, 倉重賢治				
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義 (一部実習)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ICT (情報通信技術) について実用的, 応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】 ハードウェア, ソフトウェア, ネットワークといった ICT を学び, 日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。 表計算ソフト (エクセル) の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 実社会において, 自ら ICT 業務に携わり, 効果的, 効率的な活用ができるようにする。</p>							
(1)テキスト	(1)	FOM 出版「よくわかるマスター 改訂版 日商 PC 検定試験 2 級 知識科目 公式問題集」, プリント						
(2)参考文献	(2)	特になし						
授業スケジュール	第 1 回	概要説明: 授業概要と評価方法の説明						
	第 2 回	ハードとソフト: PC 等の ICT 機器のハードウェア, ソフトウェアの解説						
	第 3 回	コンピュータの内部部品 1: CPU とメモリの解説						
	第 4 回	コンピュータの内部部品 2: ストレージと光学ドライブの解説						
	第 5 回	インターネットとネットワーク: TCP/IP の設定, ルータの役割の解説						
	第 6 回	表計算ソフトの活用 1: Web クエリのグラフ作成						
	第 7 回	表計算ソフトの活用 2: フィルターとピボットテーブル						
	第 8 回	コンピュータが扱う数字 1: 2 進数と 16 進数						
	第 9 回	コンピュータが扱う数字 2: 負の数と実数						
	第 10 回	情報セキュリティ: 共通鍵暗号と公開鍵暗号						
	第 11 回	シミュレーション 1: シミュレーションとは						
	第 12 回	シミュレーション 2: エクセルを用いたシミュレーション						
	第 13 回	意思決定: エクセルのソルバー						
	第 14 回	データ分析: エクセルのデータ分析						
	第 15 回	まとめ						
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	レポート (30%) + 授業中の課題 (40%) + 期末試験 (30%)							
実務経験について	なし							